

2019年度
クラスコメント

ちっち組

【健康】

入園の頃は、まだゴロンの子、仰向けになったり・うつ伏せになったりゴロゴロする子、ずり這いをする子、よちよち歩きの子…それぞれの姿だったちっちさん。首が座って、寝返りをうって、お座り、ずりばい、ハイハイをして、つかまり立ちができたと思ったら、一歩二歩と歩き出し、今では走る姿も見られるようになり、この一年での成長はあつという間です。

お散歩へ行く時はみんなバギーに乗っていたのが、今では先生と、またはお友だちと手をつないで歩くことができるようになりました。バギーから「私も（ぼくも）歩く！」とアピールする姿があったり、見えるものに指をさして反応したり、「でんしゃ。はっぱ。」と子どもたちが見えているものは、いつも新鮮なように感じられます。

食事も、初めは先生に介助してもらっていたのが今では手づかみ食べをしたり、スプーン・フォークに興味を持ち始め、一人で食べる姿も増えてきました。食べ終わったら自分のタオルで手や口を拭いたり、食器を片付けたり…エプロン・タオルを汚れ物袋に入れに行きパチパチ（じょーず）とする姿は“すごい”を乗り越えて感動さえおぼえます。お友だちと沢山遊んで、沢山食べて、ぐっすりと睡眠をとっているちっち組さんです。

お友だちがしていることを真似しながら、自分の成長へと繋げ、一人ひとりが自分のペースで、そして私たち職員はその子どもたちの育ちを近くで見守っています。

【人間関係】

入園した頃は、お父さんやお母さんと離れて過ごす不安でいっぱいだったちっちゃん。使ってみたいおもちゃも、他のお友だちと取りあいつこになって思い通りいかない経験が沢山あったと思います。まさに、「子どもの社会」にデビューした感じでしょうか。でも、そうやって色々な気持ちを体験しながら、少しずつまわりのお友だちの存在に気づき、自ら関わってみようとする姿がみられるようになりました。もちろん、楽しい気持ちもいっぱい共有してきました。友だち同士でケラケラ笑いながら笑っている様子は本当に楽しそうです。

また、泣いているお友だちの頭をなでてあげたり、エプロンをつけてあげたり、おもちゃを取られてしまった子に他のおもちゃを持ってきてあげたり…そんな思いやりあふれる姿を見せてくれるようになりました。相手の気持ちに気づき、力になってあげようとする心が育っている姿を見ると、とても嬉しくなります。少し年上のぐんぐんさんと一緒に過ごす中で、良い刺激を受けながら、「やってもらう」経験が「やってあげる」経験につながる瞬間を沢山見られた1年でした。

【環境】

入園したての頃、初めてのお部屋、おもちゃ、お友達に先生。きつと不安だらけだったちっちゃん。初めて見るおもちゃには興味津々な様子で、じーっと見つめたり触ってみたり、音の鳴るおもちゃに反応したりと、少しずつ自分が過ごす環境に打ち解けていく様子が見られました。いろいろなおもちゃを通し、お友だちや先生とのやりとりを楽しみながら関わることで次第に安心できる場所として過ごしてきたように感じます。子どもたちが毎日安心して過ごすためには、発達に合った環境はもちろん、人との関わりも大切なことの一つだと思います。

春の頃は、畳があるお部屋で過ごすことが多かったちっちゃん…体の成長と共に今では遊ぶ環境が広がり、ぐんぐんさんのお部屋で遊ぶことが増えました。おままごと・電車・レゴブロックなど、お友だちと一緒に過ごせる環境を楽しむ姿が深まり、遊びも豊かになっているように感じます。また、テラスで過ごしたり、お散歩に出かけたり、公園でのびのび過ごすことも増えました。これからも子どもたちがのびのびと過ごせるよう、そして楽しい・嬉しい・面白いという感情が芽生える環境をつくっていかれたらと思います。

【言葉】

春の頃のちっちさんは、まだ言葉でのやりとりこそないものの、目と目、手と手…など、子どもたちの世界の中で、子どもたちならではの、さまざまなやりとりを楽しんでいるようでした。そんなやりとりの中で、表情や身振りでの気持ちの表現も豊かになってきましたね。そこから徐々にお友だちの名前を呼んだり、日常生活の中での言葉が出たり…。そして、たとえ言葉が出ていない時期でも、大人の話している言葉はよく理解しているのだなぁと実感する日々でした。子どもたちは、表情や行動を通してそれに応えてくれます。そうやって、毎日の生活の中で少しずつ聞いたり真似たりしながら言葉を獲得していくようです。

「はい、どーぞ！」や「か～し～て～」など、相手ありきの言葉が多く見られることから、言葉の発達と人間関係の発達が深く絡み合っていることを感じます。

【表現】

力いっぱい泣いたり、怒ったり、笑ったり…ちっちの子どもたちは、表情や仕草をとおして気持ちを表現しています。お友だちとの関わりや、言葉の理解が深まってくると同時に、表現の幅もますます豊かになってきました。絵本や歌が大好きな子どもたちは、身体を動かしたり、「た～」と語尾だけ歌ってみたり、人差し指を立てて「もっかい！」とリクエストしたり、それぞれの形で参加して楽しんでいる様子です。

月齢の大きなお友だちは、ぐんぐんさんとのごっこ遊びの中で「ぱちぱちぱちのぱちんよーうい！いただきます」と食事の挨拶をしたり、「おはなしおはなし～♪」と絵本を読む前に歌う歌をうたってみたり、生活の中で身につけていることを楽しむ場面も見られます。

月齢の小さなお友だちは、今となっては、(もっと構ってよ～)(もっと食べたいよ～)などという時、ちょっぴり「うそ泣き…!？」というような名演技を見せてくれることも…。これも立派な表現ですね。

どんな場面でも、素直に感情を表出できるのって、子どもの魅力だと思います！これからも、お友だちとの関係の中で、たくさん心が動いていく体験をしながら、思いきり表現して行ってほしいと思います。

ぐんぐん組

【健康】

身体がぐんぐん大きくなり、歩くだけでなく走ったりジャンプをしてみたりと、ぐ〜んと成長したこの1年。身体を自由に動かせる喜びを感じながら、日々を楽しく過ごしています。初めは保育者と手をつないで短時間しか歩けなかったけれど、今ではお友だちと手をつないで長い時間歩けるようになりました。後半には和泉公園にも遊びに行き、ボールを追いかけたり、よーいドンをしたり、沢山走って楽しみました。身体を動かした日には、すぐに寝つき十分な睡眠をとれるようになりました。

食事では「にんじんさんだねー」と食材にも興味を持ち、「おいしいねー」とお友だちとの会話をしながら、楽しい雰囲気の中で食べる事への意欲が増してきているようです。お友だちの姿を見て苦手な物を食べてみようとする姿も見られます。手洗いが始まってからは「あわあわするー！」と楽しみながら手を洗い、「ばいきんさんバイバイしたの」と得意顔のぐんぐんさんです。よく食べ、よく寝て、病気で休むことも少なくなり、丈夫な身体に成長しました。

【人間関係】

好きな遊びを一人でじっくりしたり、一緒の空間で並行して遊んだりすることから、保育者やお友だちのしていることに興味を持つようになり、お友だち同士で関わり合う姿がたくさんみられるようになりました。年度初めからお友だちの存在に気付く、同じ場所で一緒に遊ぶ事を楽しんできたぐんぐんさん。時にはお友だちの遊びが気になって、玩具の取り合いになったり、涙を流したり、怒ったりもしています。自分の思いを主張しながら、お友だちの表情を見たり、保育者の困った表情を見ながら我慢したりと、どうにもならない気持ちを身近な保育者に受け止めてもらうといった経験を繰り返しながら過ごしてきました。お友だちの名前を言えるようになると「〇〇ちゃん今日ないねー」「〇〇くん泣いてるね」など、お友だちの様子が気になり、共有しようとする姿や、気持ちを察して相手を思いやる姿も見られ、自発的に関わろうとしています。気持ちが通じ合った時の安心した表情や、笑顔と笑い声に、“友だちと一緒に楽しいね！”を全身で感じています。

【環境】

一人遊びが多かった状態から、徐々におともだちの存在に気づき、その存在が大きくなり、おともだち同士での遊びへと、関わりがとて深まったぐんぐんさん。最近では、みんなで机を囲み、様々なものを食べ物に見立てておままごとをしたり、朝の会やおはなしの時間に歌を歌ったりと、おともだち同士で楽しむ姿が見られます。「○○ちゃん、あそぼ～」とおともだちを遊びに誘う姿も見られ、おともだちと関わる楽しさを感じているようです。指先の発達に伴って、線路を長く繋げたり、ブロックを様々なものに見立てて大きな作品を作り上げたり、想像力も育ってきています。

ちっちさんと一緒に過ごす中で、自分のことを自分でやろうとする姿だけでなく、“やってあげたい”の姿も多く見られ、おねえさんやおにいさんになって関わる姿も見られます。

出来ないことは、先生だけでなく、おともだち同士で「やって」と助けを求め合い、協力して困難を乗り越える場面も多く見られるようになりました。自分で出来たという自信が、“やってあげたい”に繋がり、園生活でのおともだちや保育者の豊かな関わりの中でぐんぐん成長している子どもたちです。

【言葉】

言葉で自分の思いを伝えることが難しく、思いが伝わらないと手が出てしまうことも多かった入園当初。まだまだ手が出てしまうこともありますが、最近では単語から2語文を話すようになり、自分の思いを自分なりの言葉で伝えられるようになってきました。言葉の発達は個人差がとても大きいですが、それぞれのペースで言葉がぐんと増えたように感じます。

自分から「ありがとう」や「ごめんね」が言えるようになり、おともだちの気持ちを代弁して伝える姿や、「たのしいね」や「いやだったよね」など、気持ちを共感したり共有する姿も見られます。話したり聞いたりする力がぐんと発達し、言葉が相手に伝わる嬉しさを感じながら、それが話すことへの意欲を育み、おともだちとのやりとりを楽しんでいます。

【表現】

音楽がだいすきで身体をゆらゆらさせながら歌ったり、おもちゃを楽器に見立てて合奏したり、全身で表現しながら音楽を楽しむ姿が見られるぐんぐんさん。『だるまさん』や『もこもこ』の絵本でも、身体を使って表現しながら楽しむ姿が多く見られます。最近では『はらぺこあおむし』や『まるさんかくしかく』の絵本がだいすきで“大熱唱”しています。好きなものを素直に表してくれるぐんぐんさんのエネルギーには、圧倒されっぱなしです。

絵画では、「あか、あお」など、色を区別しながら力強く描いています。クレヨンでのお絵かきがだいすきで、とっても嬉しそうに腕を左右に動かしそれぞれの想いを表現している姿が見られます。いろいろなものに気づいては、それを教えてくれるぐんぐんさん。新しく出合うものに興味津々で、いろいろな表情を見せてくれます。嬉しい時は全身を使って喜び、自分の気持ちや想いの表現もより豊かになりました。

にこにこ組

【健康】

身体面では体が大きくなるだけでなく、姿勢を保つバランス力や、腕で体を支える懸垂力が目覚しく発達しました。たとえばバス遠足で親しんだ木場公園では、はじめは躊躇する様子を見せていたジョングルジムやボルダリングも、なんども楽しんで遊んでいるうちに、腕の力で体を引き上げたり、手足が協調して体を滑らかに動かしたりことができるようになってきました。それと併せて指先でつかむ力や、握力もかなりついて、両手でぶら下がって全身を支えることも楽しんでます。

全身の体力やスタミナの向上にも目を見張るものがあります。脚力が著しく向上したことはお散歩にも表れています。はじめの頃はバギーに乗ったり歩いたりしながら片道30分以上かかっていた歩いた道のりも、今では友だちと手をつないで20分ほどで歩けるようになりました。

このような運動や戸外での遊びだけではなく、室内での様々な生活と遊びと相まって、精神面での健康も増進されました。明るく伸び伸びとした解放的な心情が育ち、たとえばパズルを最後まで完成させたり製作物を作り上げたりと、目当てを持って遊ぶ中で、それに挑戦してできるようになったり、あるいは自分からまたやろうとする姿が増えたりして、粘り強さや自信が育っています。

【人間関係】

2歳児クラスの時期は、今までの一人遊びを抜け出して、他者理解の力が成長する過程で強く友だちを意識するようになっていきました。友だちの名前を覚えて、その子とどんな遊びをすると楽しいのか、まず「一緒にやってみる」経験を重ねる中で、次第に友だちとの信頼関係、遊ぶ楽しさを理解していきました。

例えば、〇〇君がレゴブロックをとっても上手につくっているから楽しそう、一緒にやろうという気持ちが芽生えたら、あっという間に友だちとの距離が縮んで、お互いに見せ合いっこするほどの大作を作るほどになりました。年度のはじめは、面白そうなものがあると、それを取り合うような場面が多かったのに、最近ではお互いの興味に気づくと、余裕を持って受け止め、自分が経験したことや友だちが経験したことを分かち合うことができるようになってきています。

こうして友だちとの信頼関係を深めながら、また遊びの更なる発展を遂げていくことの繰り返しの中で、この一年を通して、にこにこ組の子どもたちの関係は深く豊かになってきたと感じています。

【環境】

環境には大きく分けて2つあります。一つは人的環境、もう一つは物的・空間的環境です。この1年間、にこにこ組の子どもたちは色々な人に支えられて生活をしてきました。保育園の中では、年下の可愛いぐんぐんさんたちとちっちさん、そして年上の格好いいわいらんさんとの関わりが大きな刺激になりました。朝や夕方だけでなく、日中も遊びに行ったりお手伝いに来てもらったりする中で、交流を深めていきました。小さい子にどうやったら優しく関わられるか、どれくらいの強さで撫でてあげたら喜んでくれるか、大きいお兄さんお姉さんはどんな遊びをしていて、「あんなにかっこいいこともできる!」といった気づきや憧れを得るなど、身近な人との関わりを通して自分たち以外の他者との社会的関わりを広がりを持つことができました。

また物的・空間的環境では、にこにこ組の遊びゾーンを子どもたちの成長を見ながら少しずつ変えていきました。まず始めに一人遊びがメインだった頃は、近くの友だちが何をして遊んでいるかよく見えるように、視界を遮らないように開けた空間にしました。その内、それぞれの好きな遊びに熱中しつつも、友だちと少しずつ関わるようになってからは、各ゾーンが集中して遊び込めるように、ひらけた空間から狭い空間へレイアウトを変えて、それぞれのゾーンで遊べるように空間を再構成しました。

ままごと遊びをひとつ取り上げてみると、遊びに慣れてきた段階で隔てた空間に分け、また見立てのできる玩具の種類を増やしたりしました。子どもたちの遊びではその頃から具体的なお店屋さんの名前を話すようになり、そこで作られるモノを作る人、買う人の役割を演じるごっこ遊びになりました。さらに買ったモノを家や公園の場に想定するなど、具体的な状況を想像しながらやりとりする姿に発展していきました。

こうして振り返ると、人的環境や物的・空間的環境を通した子どもたちの遊びが、大きく発展していった1年だったことがわかります。

【言葉】

自分の気持ちや考えていることを一生涯言葉で表現しようとする姿が顕著に増えました。その受け止め返しの中で、言葉が育まれていきました。たとえば着替えの際によく出てくる言葉で「〇〇くん(ちゃん)はこうしたかったの」「自分で〇〇やりたい」は、その代表的な例かもしれません。自分の意思を言葉で表して、上手く一人でできた時には喜びを感じています。自分の意思や気持ちを相手に言葉で伝え、それを共感的に受け止めてもらい、見守られながらやりたいことができたという達成感が、またさらに自分でやろうとする意欲につながっていきました。そうしたやりとりの中で、とても多くの言葉を身につけていったようです。

日常生活に出てくる単語に興味をもって、どんどん遊びに取り入れる時期でもありました。ごっこ遊びでは四月当初は「どうぞ」「いいよ」「ありがとう」と一言ずつのやり取りを楽しんでいた姿から、「いらっしゃいませ。何がいいですか?」「メニューはどれですか」「いっぱいがいいですか?ちょっとがいいですか?」「今からみんなでパーティーするので〇〇下さい」など、様々な設定を想像し、また誰とどこで何をするという状況もごっこ遊びの中で積極的に取り入れるようになりました。

【表現】

子どもたちは遊びの中で、自分のイメージしたものを平面、立体物の作品、あるいはごっこ遊びとして表現します。そして、成長と共に作品の内容や、遊び方に変化が表れます。

例えば、絵画で顔を描くとします。はじめの頃は大きく丸を描いて目がふたつ、口が一つだったものは次第に鼻、眉毛、髪を描くようになり、さらに手や足、体を描くようになっていきました。ただの顔から、「〇〇の顔」「〇〇の笑った顔」や、「〇〇と〇〇がお散歩を楽しんでいるお顔」など、だんだんストーリー性も表現するようになりました。

ごっこ遊びの中では「〇〇屋さん」が次第に「〇〇屋さんで買ってきたサンドイッチを〇〇公園でみんなで食べるころ」など、様々なシチュエーションを考えるようになりました。また、ストーリーの内容が複雑化することで登場人物も増え、それにあわせて役割を分かれていきます。そしてだんだんと協同的な遊びが増え、友だちとの関わりも自然と増えてきました。

わいらんすい組

【健康】

「食事」「排泄」「着替え」「睡眠」といった基本的な生活習慣や戸外で体を使って遊ぶ（運動）こと、またそこでの危険回避や怪我の防止が育ってきました。生活面では甘えたい、手伝ってほしいという思いがあるときに、「やって～」と赤ちゃん返りのようにお願いしたり、接していた子どもたちですが「先生、これ手伝って」と伝えられる姿が見られるようになってきました。何かができるようになる前のやることに対する心の準備が育ってきたと言えるでしょう。目で見える姿でいえば、スプーンの使い方、食べ方、着替えの畳み方、遊び方、過ごし方を眼の前にして私たちが「こうじゃない？（こうしたら？）」とつい言ってしまうような仕草も見受けられますが、これらの仕草はこれから自分でできるようになる姿（自律）へと育っていく心の育ち（準備）の一年だったように感じます。

また、戸外遊びでは、それぞれの子がやりたいこと、過ごしたいことを見つけることができるようになりました。走ることはもちろんのこと、部屋でのクライミング、綱、スイング遊具などで様々な運動感覚を養うことができ、その成果は初めて行った公園の固定遊具をある程度出来てしまうことからわかりました。

こうして自分の事、身の回りの事を自らやろうとする気持ちが随分と育ってきました。これからも家庭と一緒に「自らやる機会の充実」をたくさん持っていきたいと考えています。

【人間関係】

「僕はこうしたいんだよ」「私これやりたいの」と自分のやりたいことを思う存分に楽しんで遊ぶうちに、「ちょっと足りないな」「ええ！？それじゃ、使えないよ」「(お友だちが) いつも使っているから、私使えないじゃん」と、もしかしたら“友達が邪魔”という感覚になった時期もあったように感じます。(この子苦手だな・・)という思いは、そのことだったのかもしれませんが。生活を共にするうちに段々と「この子のこと好きだな」「この子すごいな」「この子といると面白いな」という体験に変わっていき「友達と一緒にやること、一緒にいることの心地よさ」を感じるようになり、「今日〇〇くんはお休みだったよ」とくお休みの友だちを意識したり、「一緒にやる人?」「はい」などとく仲間集めが活発になってきたりしました。戸外で鬼ごっこを楽しんでいる姿もその一つですね。

ただ、まだまだ相手の気持ちに気付いたり、思いやることは難しい面もあります。今は思いやりの種をまいて水やりをしているのだと思って見守り、一緒に向き合ってきた一年の成長でした。

【環境】

様々な物や体験に出会い、感動した一年でした。まずは、ゾーンでの出会い。「たくさんおもちゃがある」「おもしろそう」と、とにかくそこら中に出でてみて、遊んでみて、やりっぱなし。「ゾーン！」と言いながらも良い意味での「やりたい放題」でした。でも、そうやって遊んでいると「遊びづらい」「片付けが大変」という事が分かるようになり、そこで初めてゾーンでの遊びが深まってきたように思います。

また、動植物でいうと「メロン、スイカなど植物の栽培」「カブトムシ、蝶々、ザリガニなど」を保育園生活で取り入れたこと、園外活動では「木場公園」「おとめ山公園」「北の丸公園」「しながわ水族館」「国立科学博物館」「上野動物園」を園庭の延長として生活圏に取り込みました。

すると、たとえば「木場公園」「しながわ水族館」の魅力に心を躍らせる姿が見られ、行くたびに活動が豊かになり、自分が過ごしている環境が身近なものに変わっていく感覚を存分に感じていました。その中で「これってなんだろう」という探求心が芽生え始めており、この非認知的スキルがこれから深まっていく事が楽しみです。

【言葉】

お話をする（言葉を口にする）ことはできるけど、「自分の気持ちや思いを相手に伝える」という事からのスタートでした。「自分の考えや思いを話す」という事です。また「今日はこんなことがあったよ」という出来事を話す（報告）のと、話をし合う（会話）では全く意味が違います。食事で自分の量を伝える時に「自分の身体の状態や、食べられる量」つまり自分のことがまだよくわからない子どもたちは、間違えることがたくさんありました。4月から夏頃までは、言葉ではなく手や叩くといった「行為での言葉」のやり取りも多くありましたが、少しずつ自分の気持ちを言葉で出せるようになってきました。ただ、まだ自分の都合の良いように伝えて収めようとするこゝもしばしばでした。それでも、こんな成長が見られました。ピークステイブルで自分の思いや考えを伝え、相手の思いや考えも聞くこと。お集りでの話や、意見を表明する機会を日常の中で沢山取り入れたこと。また会話を楽しむ食事の機会などを充実させていったこと。さらに作品を高く飾って「取って」「いいよ」「これやりたい」「いいよ」というやり取りが生じるようにしたこと。

こうした環境を作ったことなどを経て、自分の気持ちと深く向き合い始めました。今は「僕の話聞いて〜」であふれているわいらんです。自分の気持ちが伝えられるようになってきた中で、「相手にどうやって伝えるか？」「相手の話を聞く」という、相手の話を聞いて、自分の思いを話そうとする言葉が出てきました。この部分への環境を作っていきたいですね。

【表現】

ゾーンがわかり、自分のやりたいことを見つけたり、予定を立ててくる姿が増えてきました。LaQで「これを作る」という時に絵本を持ってきて、「お寿司の種類はどんなのがあるかな？」と考えながら作ってみたり、「イーゼルやる」といって経験した星や月の観察を実際に絵で描いてみようとしたり、「これはね、ゼロワンのやつ」とプリズムコマで作ってみたり、ごっこゾーンでは「へい！おまち」「お待ちして申し訳ありません」と休日にお出かけたレストラン？を演じてみたりと、普段の生活で経験していることを、それぞれが「もう一度再現したい」「やってみたい」ことを表現していました。また、夏の涼の取り方の中で経験した「色水あそび」では、絵の具の感触や色の変化などへの関心が高まり、お部屋の中で「色水遊びゾーン」を新しく作り、生活の中でやりたい、表現したいことを作り出す姿も出てきました。これからは、廃材や様々な遊具や材料、道具（はさみ、のり、のこぎり、トンカチなど）を用いて、どの子ども自分で表現したい事を自由にできる機会をもっと増やしていきたいですね。

調理

「食べること」は生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。「なにを」「どれだけ」食べるかというだけでなく、「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」食べるかということが重要です。さらに食事は五感を使うので、子どもの発達にはとても重要になってきます。

【嗅覚】食べ物の匂いをかぐ。

【視覚】食べ物を見る。

【触覚】食べ物に触れる。

【聴覚】口に入れ噛んだ時の音を聞く。

【味覚】味を感じてみる。

食事という一連の流れで五感を全て使っています。保育園では年齢が上がるとクッキングをします。そこで、様々な五感を使い、さらに協力することでコミュニケーション能力も育ちます。にこにこ組は初めてのトウモロコシの皮むきや枝豆のさやとりに挑戦し、わいわい・らんらん組は、日本ならではの梅干しなどに挑戦しました。

日頃のクッキングや行事食の様子を掲示から感じ取っていただけたらと思います。昼食や午後おやつで提供しているレシピも一緒にご覧ください。

保健

保育園での保健は、「園全体の健康の保持増進及び安全の確保に努める事」と「子どもが自らの体に関心をもち、心身の機能を高めていく事」が重要です。

子どもが長い時間集団で生活する保育園では、園全体の健康の保持・増進に、一人ひとりの健康づくりが必要です。健康づくりは、睡眠・食事・遊びなど一日の生活リズムを整えることが基礎になります。これは保育園と家庭で協力してバランス良く整えていくように配慮することが必要です。

多岐にわたる保健の活動の中で重要なものに「保健衛生教育」があります。それには「手洗い」「うがい」「咳エチケット」「トイレの使い方」「鼻のかみ方」「歯みがき指導」「いのちの話」・・・など色々なものが「保健衛生教育」に含まれますが、今年度は「手洗い指導」を中心に行いました。

《ぐんぐん》

絵本やスタンプ「手洗い練習スタンプ・おててぽん」を使用しバイキンを泡で流す事を理解しました。朝のおやつ前、食事前、午後のおやつ前も手洗いの習慣が出来ています。一日の流れの中で、お友だちと一緒にやることで自然と身につけていく保育園の良さを実感します。

《にこにこ》

自我が芽生える時期になってきて、最近では手洗いでさっぱりする気持ちの良さが分かってきたようで、粘土の後などは自ら手洗いの姿が見られます。洗いはじめると泡と水が楽しくなりすぎて、なかなか終わらない時も多いです。

《わいらん》

「あわあわ手洗いのうた」で洗う部分と順番を覚えて、「手洗いチェッカー」でバイキンの落ちにくい部分（洗い残し部分）を目で見て、その後、丁寧に洗えば落ちる事を確認しました。

「あわあわ手洗いのうた」ポスターを貼り、歌いながら洗うことで、日に日に上手になってきています。